

「IT・家族・ジェンダー - 情報化社会がもたらす新しい格差の克服をめざして」

原ひろ子

放送大学教養学部教授（生活と福祉専攻）

概要

1. はじめに

2. 日本人の情報行動と「パーソナル・メディア」の利用 (HARA 1,2,11)

東京大学社会情報研究所による「情報行動調査」(HARA1 - 9, 14 - 16)

・ 第1回調査(1995)

調査対象：全国の13歳から59歳、有効サンプル数1,025（回収率？）

調査方式：日記式調査、質問票調査

・ 第2回調査(2000)

調査対象：全国の満13歳以上70歳未満の男女、回収票2,017（回収率67.2%）

調査方式：日記式調査、質問票調査

NTTデータ開発本部システム科学研究所による調査 (RISS 調査) (HARA11 - 13)

・ 「情報化と生活意識に関する国際比較調査レポート」(1997)

調査対象：東京20歳から69歳の男女、有効回答499

シリコンバレー 20歳から69歳の男女、有効回答301

ストックホルム 20歳から69歳の男女、有効回答305

ソウル 20歳から69歳の男女、有効回答320

上海 20歳から69歳の男女、有効回答307

調査方式：訪問面接法(東京、ストックホルム、ソウル、上海)

面接法(シリコンバレー)

・ 「情報化とライフスタイルに関する調査 - 人の情報化の動向」(2000年6月)

調査対象：全国の満18歳以上70歳未満の男女、有効回答2,075(回収率69.2%)

調査方式：訪問留置・訪問回収

3. 「パーソナル・メディア」利用の性別・年齢的比較

パソコン利用現状：男>女、10代<20代>30代>----->60代、フルタイム>専業主婦 (HARA 3 - 6,9)

パソコン・ワープロの学び方：家族や知人による/パソコン教室 女>男 (HARA 7)

インターネットを利用しない理由：男=女 (HARA 8)

4. 「デジタル・デバイド」の克服の試み - さまざまなパソコン講座

インターネットの利用を希望する：女>男、世帯収入 高>低 (HARA 9)

インターネット個人利用率の経年変化：1997 - 2000 の間に男女格差は縮小の傾向 (HARA 11)

インターネット利用の国内地域格差：1997>2000 (HARA 12)

高齢者向けパソコン講座、全国の市にある女性センター等でのIT講習会
職場での講習会

国際情報について英語使用能力による格差（翻訳ボランティア）

日本のジェンダー構造（例 GEM*順位の低さ）と地球社会での日本のGDP/GNPの高さの狭間にある女性

国際機関や国際NGOが主催するWID/GADを含む男女平等/男女共同参画関連のワークショップなどに日本女性が参加していない。

日本のNGOの財政基盤は税制などの理由からきわめて弱く、日本女性は国際会議に自費で参加している場合が多い。その財源に限界がある。

結果として、日本全体がWID/GADを含む男女平等/男女共同参画に関する国際潮流から遅れている。

5. 情報化社会と家族・ジェンダー

女性団体による活動：国際、国、市町村単位の官民の動きについて、一斉送信FAXやe-mailで全国（または在外）の会員に送信する。

具体例

・女性政策情報ネット（JJ ネット）ニュース（1996年8月～）：新聞やテレビが掲載しない女性政策関連情報

・女性と健康ネットワーク（1994年1月～）：女性と健康、人口政策、国連国際人口開発会議関連、NGOと政府の関係に関する情報など

におけるFAXの効用：女性政策に関して、家族や職場の同僚が送信されてくるFAXを見て、男女平等/男女共同参画についての認識が変わる

におけるe-mailの効用：仲間に転送しやすい

SOHO、e-shoppingなどの普及により、いずれ男性も堂々と家族責任と職業を両立させるようになる日が来るかもしれない

時間の使い方と判断力（情報選択能力）の涵養

携帯メールの相手：ふだんよく会う友人（SIC携帯調査**）（HARA 10）

携帯電話/携帯メールによる家族の交流の促進

障害者にとっての利点

6. 「デジタル・デバイド」を克服するための条件

ア．インフラストラチャー：階層格差、地域格差、障害者格差、言語格差をどう克服するか

イ．心のあり方：情報選択能力の育成、想像力・創造力の涵養（IT世界の中で、IT世界の外で）

ウ．危機管理：技術的課題、制度的課題、利用者の態度

エ．その他：手書きの手紙や手書きの文字の芸術化（例 書道）、その他の芸術とITの関連

7. おわりに

「男女平等を説く」方法から「男女平等に体得する」方法を考える。

階層格差、地域格差、障害者格差、言語格差などに関しても「具体的な解決方法」を個別の状況に応じて工夫すると同時に、国際社会で対応していきましょう。

*ジェンダー・エンパワーメント指数(GEM): 政治経済分野の活動における女性と男性との相対的なエンパワーメント(能力と機会の拡大の程度)を測定するために作られた変数を使った複合指数である。最終GEM値は、経済参加と意思決定、政治参加と意思決定、および経済力を測るための三つの指数を足し合わせて得られる(UNDP『人間開発報告書2000「人権と人間開発」』(日本語版)、国際協力出版会、2000, p. 319)。

**SIC携帯調査: マルチメディア振興センター(2000)報告書「インターネット、携帯電話・PHSの高度利用に関する調査研究」(<http://www.fmmc.or.jp/fmmc2/fm5012-3.html> 参照)